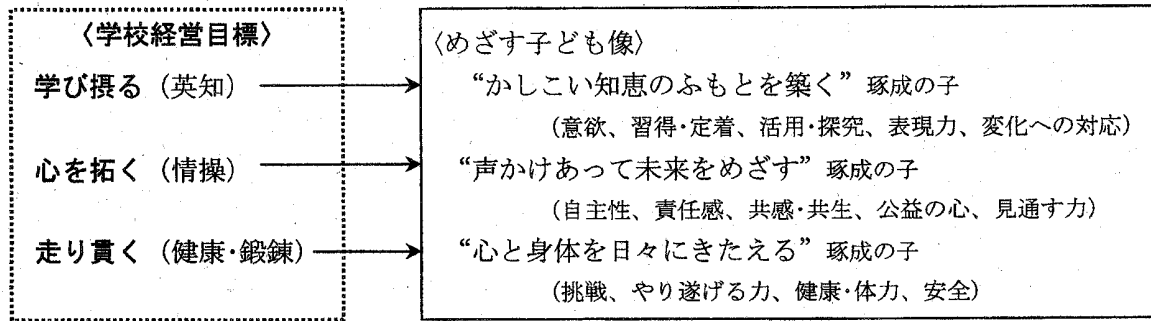


平成29年度 琢成小学校の学校経営

【 建学の精神 】

『玉不琢 不成器 人不学 不知道』(中国の古書「礼記」より)

I 学校の教育目標 「高さを求め、気品を備え、たくましく生きる 琢成の子ども」



II めざす学校像

- 子ども達一人一人を大切に、温かなふれあいが広がる学校
 - 子ども達一人一人の意欲を引き出し、よさを伸ばす学校
 - 子ども達とともに創意工夫し、さわやかな挨拶と笑顔があふれる学校
- * 「学校の教育目標」具現化に向けた取り組みを通して、保護者・地域から信頼される学校

III ありたい教師像

- 「あなたが大切・あなたを知りたい」という気持ちを常に持ち、子どもの心に寄り添える教師
- 小さな進歩やよさに気づき、好奇心の目を広げ、次への意欲を引き出す教師
- 子ども達の手本や目標・あこがれとなるように、日々進化し学び続ける教師

IV 学校経営の重点

1 安全・安心な学校づくりの推進

- (1) 命や生き方を大切にする教育を推進する。
- ① 「相手意識」「心を込める」を29年度のキーワードとして、人と人とのふれあいやかかわりを深める。(「心とからだの学習」推進計画に沿った指導・いのちの講話・メッセージ交流)
 - ② 「個：自尊感情を高める」「学級：友達とのよりよい関係づくり」「学校：リーダーシップとフォローシップ」を意識した取り組みを進め、全教職員で積極的生徒指導に努める。
(いじめの未然防止・「いじめ防止基本方針」による)
- (2) 実際に生きる防災マニュアルの見直しと、教職員が危機管理意識を高め、日々の児童の姿から危険を予測し、情報の共有化と改善を図る。(「学校保健・安全計画」に基いた指導)
また、家庭・地域・関係機関と連携し、危険回避できる学校体制の整備・維持を図る。

2 誇りと伝統を大切に、勢いと潤いのある教育活動の創造

- (1) 年間を4節に区切り、各節の目標を焦点化して設定する。その目標具現のための活動を全校一体となって展開し、勢いのある学校づくりを進める。
- ① 酒田市の中心街に位置する本校の特色を生かした教育活動を推進する。
 - ② 全教育活動における“道徳教育”の実践(振り返り・言葉での意識化や可視化・「別業」の活用)

③各節における「重点内容項目」の設定と実践

④児童会活動の更なる活性化（生活を見つめ、気づき考え、よりよい学校生活を築くための活動）

(2) ねらいと子どもの活動意欲を大切にしたい授業や教育活動づくりに努める。

・活動前の丁寧な事前準備と事前指導

・本活動そのものの評価場面の位置づけ

・活動後に適切な振り返りを行い、次に生かす。(成功体験の積み上げ・失敗体験からの学び)

(3) 豊かな感性や表現力をはぐくむ意図的教育活動を進める。

①「歌声」響く学校づくり

②「読書」に親しむ教育環境づくりと「ことば」の研ぎ澄まし（吟味・品格）

③様々な表現の機会を設定（ことば・音楽・美術・技術・体・ノートづくり 等）

3 学校課題解決のための協働体制の構築

(1) 子どもの姿を通して具体的な話し合いが進められるよう週の打ち合わせを放課後に設定し、児童の安全確保を図る。同僚性を高め、共通理解・共通実践でぶれない指導を徹底する。

(2) 互いの実践や情報交換により、実態に応じた柔軟で創意あふれる学級・学年経営を進める。

(3) 「運営委員会」で各部長の思いを聞くとともに、基本方針を受けて「担当部会」で教職員の創意工夫が生きる具体的な方策を検討する。また、必要に応じてプロジェクトチームを組織し課題に対応する。(特別支援教育・運動会・周年祭 等)

(4) 開かれた学校づくりに努め、家庭・地域の教育力を生かした教育活動を推進する。

①地域人材や酒田市ならではの施設活用や自然に触れ、納得・実感のある学びを広げる。

②学びの場を地域に広げた子ども達の活動づくりを進める。(子ども商店街活動など)

③実際の災害時に対応できるように危機管理体制や避難訓練のあり方について改善を図る。

・地域危険箇所点検：交通安全・不審者・地震・津波 等

・地震津波に関する親子防災教室の実施

(5) 新学習指導要領の実施に向けて内容を確認しながら、その対応を検討する。

(6) 関係幼稚園・保育園や第一中学校との連携による“わたりの指導”の充実を図る。また、学童保育所と連携し、児童の心の安定やよりよい人間関係づくりに努める。

(7) 教師としての強い使命感、高い専門性、そして豊かな人間性を身に付ける。

V 指導の重点 ～「人間力に満ちあふれ、酒田の未来をひらく人づくり」～

1 「声かけあって未来をめざす」・・・響き合う温かな心をはぐくむ指導

(1) “違い”を認め合い、支えあい、高め合える学年・学級集団を育成する。

①縦割り活動を中心にして、人と人とのふれあいを大切にし、心を通わせみんなで創り上げる喜びや達成感を味わわせる。 ※生徒指導の三機能（自己決定・自己存在感・共感的人間関係）

②一人一人が活躍できる場を設定し、お互いを認め合う中で、自尊感情や所属感を高める。

③自分たちの生活を見つめ、児童会スローガン「元気いっぱい、笑顔あふれ、みんなで支え合う 琢成小の仲間」と照らし合わせながら、ねらいを明確にした主体的な活動づくり（含、話し合い活動）の充実を図る。 ※授業・学級会活動・児童会活動（代表委員会）・クラブ活動 等

(2) 道徳教育の充実と「公益の心」の涵養に努める

①心に響く（心が揺れる）「道徳の時間」の授業実践に努める。

(多様な考え・多面的な見方・根拠を明確にしなが、自分だったらどうするかを考える。)

②学校や地域・家庭の中で自分が人のためにできることを考えて実践する。

(心を行動に変換する。思いを込める。相手の思いを感じる。)

2 「かしこい知恵のふもとを築く」・・・豊かな「まなび」をはぐくむ指導

(1) 「確かな学力」を育成するための授業改善に努める

- ①つけたい力を明確にし、主体的な学びをはぐくむ単元構成や指導方法を工夫する。
- ②知的好奇心を揺さぶり、学習の必要感を醸成する課題提示を工夫する。
- ③知識・技能の「習得」に加え、それらを「活用」し根拠を明確にした(ことばの吟味)話し合いや表現し合う授業を通して、思考力・判断力・表現力を育てる。
- ④個に応じたきめ細かな指導を工夫する。

(2) 自分の生活を主体的計画的に創り上げる視点を持ち、学習の習慣化と「内容」の定着を図る。

- ①クラスタイム、放課後の活用、学年テストを工夫する。
- ②「家庭学習」習慣化と、発達段階における質の向上を図る。

(3) 教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進

- ①ユニバーサルデザインの考え方を生かした学級づくり・授業づくりを工夫する。
- ②一人一人の教育的ニーズを把握した個別の指導計画等の活用を進め、適時に対応についての共通理解を図りながら、継続した教育支援を行う。(必要に応じて外部機関との連携を図る。)
- ③的確な実態把握のもと、職員の連携による支援体制(TT体制など)を工夫する。
- ④保護者との日常的な連携を大切に、子育てについての協働姿勢を構築する。

(4) 読書の好きな子どもを育てる

- ①本に親しむ活動を推進し、日常的に読書が楽しめる環境整備に努める。
- ②計画的な図書活用を図るとともに、選本指導と子ども相互の日常的読書紹介を工夫する。
- ③心を動かす読書・ことばを磨く読書の実践を積み上げ、親子で読書に親しむ「家読」の推進。
- ④季節感のある図書館経営に努めるとともに、市立図書館の積極的な活用を図る。

3 「心と身体を日々きたえる」・・・健やかでたくましい体をはぐくむ指導

(1) 心身の健康や安全への自己管理能力をはぐくむ。

- ①基本的生活習慣の確立と生活リズムの向上を図る。
- ②気づき・考え・よりよい判断を磨き、避難訓練を通して、いのちを守るための基本的行動習慣や危険回避能力の育成を図る。
- ③教職員の危機管理能力(定期的な安全点検と日常の気づき・「～かもしれない」という思考)を高めるとともに、児童の気づきを大切に安全点検を実施する。
- ④いのちのつながりやたくさんの方の愛情(願い)に気づき、感謝の気持ちを込めて給食をいただく態度を育てる。(ていねいに・残さず)また、将来に生きる望ましい食習慣の形成に努める。

(2) 運動することの楽しさ、喜びが実感できる活動づくりを進める。

- ①運動環境の整備と体を動かす日常的な遊びを奨励する。
- ②より高い目標を持ち、自己記録更新に向けて精一杯取り組む(あきらめない心)態度を育てる。
- ③同じ目標に向かって励まし合い助け合い、喜びや悔しさを分かち合うことで心育てる。
- ④メディアから意識して離れる時間を持ち、親子で一緒に運動することを奨励する。